直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和７年１月２３日時点

開催日時	開催形式（場所）	名称
1月24日(金) 14:00～17:00	ハイブリッド （岡山大学）	公開シンポジウム「多様な人財が拓く学術の未来に関するシンポジウム：研究とコアファシリティのマネジメント人財の役割」
1月24日(金) 16:00～17:30	日本学術会議講堂	講演会「国際会議主催者セミナー」
1月25日(土) 13:00～17:30	ハイブリッド （関西外国語大学）	公開シンポジウム「阪神・淡路大震災30年と次世代の多文化共生～問われる日本の教育と若者の未来～」
2月3日(月) 13:00～17:30	ハイブリッド （日本学術会議講堂）	国際会議「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024『持続可能なイノベーション創出のためのエコシステム～2040年の科学・学術と社会を見据えて～』」
2月15日(土) 13:00～16:00	オンライン	公開シンポジウム「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する(3)」
2月16日(日) 14:30～16:45	オンライン	公開シンポジウム「知ってほしい運動器疼痛・疾患の対策と実践」
2月24日(月) 13:00～17:00	ハイブリッド （日本学術会議講堂）	学術フォーラム「成人病から生活習慣病、そして今後　～疾病予防をさらに進めるために～」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。

多様な人財が拓く学術の未来に関するシンポジウム：研究とコアファシリティのマネジメント人財の役割

主催 日本学術会議若手アカデミー学術の未来を担う人材育成分科会
一般社団法人研究基盤協議会

場所 岡山大学創立五十周年記念館（現地定員 400名・先着）/Zoom

日時 令和7年（2025年）1月24日（金）14:00～17:00

参加無料・要事前申込
（締切1/20）

知の継承と創造、活用により世界の牽引役を目指す我が国において、学術を担う優れた研究者・技術職員・事務職員・URA等の研究人財（人は財（たから）であるとの意味を込めて、「人材」を「人財」と表記する）の育成と多様性の確保は、極めて重要な事項である。近年、研究力と国際競争力の強化が叫ばれる中で、研究人財を取り巻く環境は大きく変化している。本シンポジウムでは、「マネジメント」について、若手アカデミー、研究基盤協議会、文部科学省の各立場から、課題と解決策について意見交換と議論をする。

◆司会　植原 邦佳（一般社団法人研究基盤協議会技術職員コンソーシアムコーディネーター／
大阪大学接合科学研究所　技術部技術専門職員）

開会挨拶

14:00　小野 悠（日本学術会議連携会員／若手アカデミー代表／豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授）

活動紹介

14:10　小川 剛伸（日本学術会議連携会員／若手アカデミー学術の未来を担う人材育成分科会委員長／
京都大学大学院農学研究科助教）

江端 新吾（一般社団法人研究基盤協議会代表理事・会長／
東京科学大学戦略本部教授・理事特別補佐（総合戦略担当））

手塚 茜（文部科学省次の一手チーム）

パネルディスカッション

14:40　◇ファシリテーター　小野 悠（日本学術会議連携会員／若手アカデミー代表／
豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授）

◇パネリスト　河岡 慎平（日本学術会議連携会員／若手アカデミー学術の未来を担う人材育成分科会委員／
東北大学加齢医学研究所生体情報解析分野准教授／
京都大学医生物学研究所臓器連関研究チーム特定准教授）

川口 慎介（日本学術会議連携会員／若手アカデミーワーク・ライフ・バランス分科会委員長／
海洋研究開発機構主任研究員）

門田 有希（日本学術会議連携会員／若手アカデミー会員／
岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域准教授）

安東 真理子（一般社団法人研究基盤協議会技術職員コンソーシアム代表／
東北大学工学研究科・工学部技術部技術専門職員）

江口 奈緒（一般社団法人研究基盤協議会若手ネットワーク代表／
大阪大学コアファシリティ機構共創利用支援部門技術専門職員）

石川 智規（文部科学省次の一手チーム）

廣江 永（文部科学省次の一手チーム）

山本 智久（千葉大学学長特別補佐（イノベーション推進担当））

質疑応答・総括

16:20　小川 剛伸（日本学術会議連携会員／若手アカデミー学術の未来を担う人材育成分科会委員長／
京都大学大学院農学研究科助教）

江端 新吾（一般社団法人研究基盤協議会代表理事・会長／
東京科学大学戦略本部教授・理事特別補佐（総合戦略担当））

梅津 太紀（文部科学省次の一手チーム）

閉会挨拶

16:40　江端 新吾（一般社団法人研究基盤協議会代表理事・会長／
東京科学大学戦略本部教授・理事特別補佐（総合戦略担当））

国際会議主催者セミナー

日　時：2025年1月24日（金）16：00～17：45 ／ 参加無料（事前登録制）
場　所：日本学術会議講堂
主　催：日本学術会議 国際委員会、日本政府観光局（JNTO）
参加登録はこちら：https://www.jcb.jnto.go.jp/l/894021/2024-11-26/31kfyb8

【セミナー概要（予定）】
・第27回国際昆虫学会議（ICE 2024）の誘致・開催について
　　沼田 英治氏（京都大学総合研究推進本部 特定教授・京都大学 名誉教授）
・英語プレゼンテーションのキーポイント
　　アダム・フルフォード氏（有限会社フルフォードエンタープライズ 会長）
・日本学術会議・日本政府観光局による支援
　　日本学術会議事務局　参事官（国際業務担当）　大沼 和善
　　日本政府観光局　MICEプロモーション部長　巽 麻里子

同時開催！ネットワーキングイベント
日　時：2025年1月24日（金）18：00～20：00 ／ 参加無料（事前登録制）
場　所：ブラッスリー ポールボキューズ ミュゼ（国立新美術館３階）
主　催：日本政府観光局（JNTO）

＜お問い合わせ先＞
日本政府観光局（JNTO）
MICEプロモーション部 市場戦略グループ
TEL：03-5369-6015、E-mail：shijo@jnto.go.jp

SCIENCE COUNCIL OF JAPAN 日本学術会議

JNTO 日本政府観光局

Japan. Meetings & Events
New ideas start here

関西外国語大学国際文化研究所(IRI)/日本学術会議(地域研究委員会 多文化共生分科会)主催

公開シンポジウム

阪神・淡路大震災30年と次世代の多文化共生

～問われる日本の教育と若者の未来～

6,434人が犠牲となった阪神・淡路大震災から、2025年1月17日で30年を迎える。多くの被災外国人への支援活動や互いの助け合いから「多文化共生」という言葉が全国に広まった。

本シンポジウムでは、外国ルーツの若者たちの進路、特に大学進学に焦点を当て、この30年間で何を達成し、何がまだ大きな課題であるのかを、共に考えてみたい。

2025年1月25日(土)
13:00～17:30

対面 ＋ オンライン
関西外国語大学
中宮キャンパス・マルチメディアホール

参加無料 事前申込

申込方法: QRコードから
申込締切:1月23日(木)
オンラインは当日まで

https://www.ocans.jp/kansaigaidai/schedule?fid=R8C6tqGZ

アクセス

大阪府枚方市
中宮東之町16-1

京阪電車 枚方市駅
京阪バス北3番・
北4番のりば(約8分)
「関西外大
中宮キャンパス」
下車すぐ

プログラム

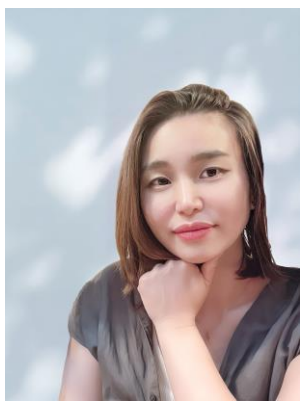
開会挨拶	竹沢泰子(日本学術会議会員／関西外国語大学)
第一部 映画上映 (13:00～14:10) 司会 吉村真子(日本学術会議連携会員／法政大学)	
上映	「レモン」(制作 松原ルマ 8分) 「はざま－母語のための場をさがして」(監督 朴基浩 38分) 質疑応答
休憩(20分)	
第二部 シンポジウム (14:30～17:30) 司会 チャクル・ムラット(関西外国語大学短期大学部)	
趣旨説明	竹沢泰子
講演	教育の視点で「多文化共生」の30年を振り返る ～たかとりコミュニティセンターの活動から～ 吉富志津代(武庫川女子大学)
講演	多文化共生を、自分の経験から振り返る 松原 ルマ ユリ アキズキ(広告関連会社員)
講演	外国ルーツの若者にとっての大学進学～母語教室をめぐる映像制作から見えてきたもの～ 朴基浩(映像作家／NPO法人 IKUNO・多文化ふらっと)
講演	多文化共生の対象外とされる子どもたち～社会統合を高等教育の現場から考える～ 稲葉奈々子(日本学術会議連携会員／上智大学)
休憩(15分)	
全体討論	コメント 清水睦美(日本女子大学) 質疑応答 司会 竹沢泰子
閉会	

お問合せ:関西外国語大学 国際文化研究所
e-mail: iri-2024@kansaigaidai.ac.jp
Tel: 072-805-2801 (代)(事務担当:研究支援センター)

プロフィール

吉富志津代（よしとみ　しづよ）

武庫川女子大学　国際センター長／心理・社会福祉学部教授。
南米の領事館秘書を経て、阪神・淡路大震災後は、外国人救援ネットやコミュニティ放送局FMわぃわぃの設立に参加。近著に『多様な学びの場をつくる—外国につながる学習者たちの教育から考える』（編著, 明石書店）



松原 ルマ ユリ アキズキ（まつばら　るま　ゆり　あきずき）

ブラジル サンパウロ出身。2006年自身の日系ブラジル人3世としてのルーツをテーマにした映像作品「レモン」が「東京ビデオフェスティバル」で優秀作品賞に入選。
在住外国人支援のNPOで同ルーツの教育支援に携わりながら、現在広告関連の企業に勤務。

朴基浩（ぱく　きほ）

映像作家。NPO法人クロスベイス理事、NPO法人IKUNO・多文化ふらっとアドバイザー.定時制。通信制高校生の直面する「進路未決定」の課題を知り、NPO法人D×Pを設立。定時制高校等でのキャリア教育プログラムをてがける。「なぜ生理はタブー視されるのか」映画祭入賞。

稲葉奈々子（いなば　ななこ）

上智大学教授。国際社会学が専門。移住者と連帯する全国ネットワークや反貧困ネットワークなどでも活動、「仮放免高校生奨学金プロジェクト」の運営に関わっている。
『入管を問う—現代日本における移民の収容と抵抗』（編著、人文書院2023年）

清水睦美（しみず　むつみ）

日本女子大学教授。専門は学校臨床学、教育社会学。移民の子どもと災害を対象として学校教育とヴァルネラビリティの関係を検討。主著『震災と学校のエスノグラフィー』
（共著2020年、勁草書房）、『日本社会の移民第二世代』（共著2021年、明石書店）

司会・趣旨説明等

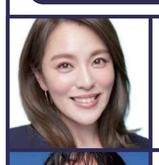
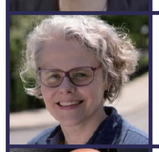
吉村真子	法政大学社会学部教授
	日本学術会議連携会員　多文化共生分科会副委員長
チャクル・ムラット	関西外国語大学短期大学部准教授
竹沢泰子	関西外国語大学国際文化研究所長　京都大学名誉教授
	日本学術会議会員　多文化共生分科会委員長

持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024

「持続可能なイノベーション創出のためのエコシステム ～2040年の科学・学術と社会を見据えて～」

開催形式	ハイブリッド形式 （会場：日本学術会議講堂、オンライン：申込者にＵＲＬ送付）
定員	会場150名、オンライン450名（参加費無料・託児所あり）
言語	日本語・英語（同時通訳あり）
主催	日本学術会議 （国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024分科会）
後援	内閣府科学技術・イノベーション推進事務局、文部科学省

2025年 2/3（月）

13:00–13:05	開会挨拶		開会挨拶 光石　衛（日本学術会議会長）
13:05–13:10	開会挨拶		来賓挨拶 今井　絵理子（内閣府大臣政務官）（調整中）
13:10–13:15	開会挨拶		趣旨説明 加納　圭（滋賀大学教育学系教授、日本学術会議「国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024分科会」委員長）
13:15–13:40	基調講演		標葉　隆馬（大阪大学・社会技術共創研究センター准教授、日本学術会議「国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024分科会」副委員長、日本学術会議若手アカデミー副代表）
13:40–14:05	基調講演		オドレ・モアズ（マギル大学化学部教授）
14:05–14:30	基調講演		フェビアン・メドヴェッキー（オーストラリア国立大学科学院科学意識向上センター准教授）
14:30–14:55	基調講演		唐昆（清華大学万科公共衛生健康学院准教授）
15:15–17:25	パネルディスカッション　モデレーター		標葉　隆馬（大阪大学・社会技術共創研究センター准教授、日本学術会議「国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024分科会」副委員長、日本学術会議若手アカデミー副代表）
15:15–17:25	パネルディスカッション　パネリスト		ソヨン・イム（東亜大学インターディシプリナリー・スターディーズ・カレッジ助教授）
15:15–17:25	パネルディスカッション　パネリスト		チャンドラ・シェカール・シャルマ（インド工科大学ハイデラバード校化学工学部教授）
15:15–17:25	パネルディスカッション　パネリスト		杉浦　愛（UNESCO科学プログラム専門員）
15:15–17:25	パネルディスカッション　パネリスト		スルフィカール・アミール（南洋理科大学社会科学部准教授）
15:15–17:25	パネルディスカッション　パネリスト		吉川　真由（ARCH Venture Partnersシニアアドバイザー）
15:15–17:25	パネルディスカッション　パネリスト		井上　眞梨（株式会社メルカリ R4D マネージャー）
17:25–17:30	閉会挨拶		日比谷　潤子（日本学術会議副会長（国際活動担当））

参加登録

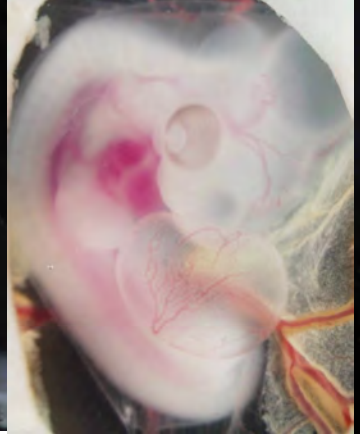
◀ 会場参加

◀ オンライン参加

URL https://icsts2024.pco-prime.com/?lang=jp

お問合せ：持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024事務局
（株式会社プライムインターナショナル）
TEL：03-6277-0117 E-mail：icsts2024@pco-prime.com
営業時間：10:00–17:00（土・日・祝日・年末年始（12月28日～1月5日）は休業）

※休業日、営業時間外にお送りいただいたメールへのご返信は翌営業日以降となります。



公開シンポジウム

動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する(3)

2025年2月15日（土）13:00-16:00

Zoomオンライン開催　参加費無料　要事前登録

向井 裕美（森林総合研究所 主任研究員）
　カメムシ類の振動コミュニケーションの世界

後藤 龍太郎（京都大学瀬戸臨海実験所 助教）
　海産無脊椎動物の多様性と進化

志賀 向子（大阪大学大学院理学研究科 教授）
　昆虫の不思議なリズム

田中 幹子（東京工業大学生命理工学院 教授）
　動物の体の形のできかた

平沢 達矢（東京大学大学院理学系研究科 准教授）
　脊椎動物形態進化の黎明期の謎

参加登録はこちら

2月7日17時締切

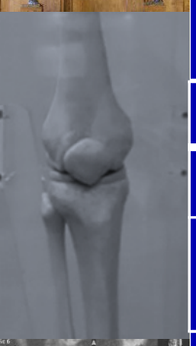
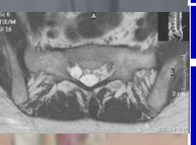
主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会動物科学分科会
共催：ERATO深津共生進化機構プロジェクト　連絡先：M-ERATO-International-Seminar-ml@aist.go.jp

日本学術会議公開シンポジウム

日時：2025年2月16日
14:30-16:45

知ってほしい運動器疼痛・疾患の対策と実践

2/16（日）

総合司会　**住谷　昌彦**【日本学術会議連携会員、東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部准教授】

挨拶

14:30
開会の辞
中村　雅也【日本学術会議第二部会員、慶應義塾大学医学部整形外科教授】

14:35
来賓挨拶
森光　敬　様【厚生労働省医政局長】
中島　康晴　様【日本学術会議連携会員、公益社団法人日本整形外科学会理事長、九州大学大学院医学研究院整形外科教授】

第1セッション「日本学術会議運動器疼痛についての見解発出」

◇司会　**村井　俊哉**【日本学術会議連携会員、京都大学大学院医学研究科精神医学教授】

14:40
『運動器疼痛についての見解の発出の意義と求められる展開』
住谷　昌彦【日本学術会議連携会員、東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部准教授】

第2セッション「運動器疾患の疫学調査：現況と今後の方向性」

◇司会　**井関 雅子**【日本学術会議連携会員、順天堂大学医学部麻酔科学・ペインクリニック講座教授】

15:00
『日本の運動器疾患の疫学調査：現況と今後の方向性』
吉村　典子【日本学術会議連携会員（特任）、東京大学医学部附属病院22世紀医療センターロコモ予防学講座特任教授】

第3セッション「ロコモティブシンドローム対策：現況と今後の方向性」

◇司会　**竹下　克志**【日本学術会議連携会員（特任）、自治医科大学整形外科教授】

15:20
『ロコモ予防の2つのポイント～痛みとロコモサインに気をつけよう～』
山田　恵子【埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授、ロコモチャレンジ！推進協議会委員】

第4セッション「がんロコモを知っていますか？」

◇司会　**住谷　昌彦**【日本学術会議連携会員、東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部准教授】

15:40
『ロコモ予防の2つのポイント～痛みとロコモサインに気をつけよう～』
森岡　秀夫【東京医療センター整形外科科長、ロコモチャレンジ！推進協議会委員】

総合討論

16:05
◇司会
中村　雅也【日本学術会議第二部会員、慶応義塾大学医学部整形外科教授】
竹下　克志【日本学術会議連携会員（特任）、自治医科大学整形外科教授】
◇コメンテーター
住谷　昌彦【日本学術会議連携会員、東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部准教授】
吉村　典子【日本学術会議連携会員（特任）、東京大学医学部附属病院22世紀医療センターロコモ予防学講座特任教授】
山田　恵子【埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授、ロコモチャレンジ！推進協議会委員】
森岡　秀夫【東京医療センター整形外科科長、ロコモチャレンジ！推進協議会委員】

挨拶

16:40
閉会の辞
竹下　克志【日本学術会議連携会員（特任）、自治医科大学整形外科教授】

場所：オンライン開催（facebook配信）

参加費無料　https://www.facebook.com/profile.php?id=100081665534401

<< 事前質問メール >>
locomopain2022july@ymail.ne.jp
受付締切：2025年1月30日
※全ての御質問に対応できないことを事前にご了承ください

主催：日本学術会議臨床医学委員会慢性疼痛分科会

後援：公益社団法人日本整形外科学会、一般社団法人日本疼痛学会、一般社団法人日本ペインクリニック学会、一般社団法人日本運動器疼痛学会

日本学術会議主催学術フォーラム（概要）

１．開催日時　　令和７年２月24日(月)13:00 ～ 17:00

２．開催形式　　日本学術会議主催

３．開催場所等　　日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）

４．テーマ
「成人病から生活習慣病、そして今後　～疾病予防をさらに進めるために～」

５．企画趣旨
生活習慣病という用語は、平成８年に厚生省（当時）により導入後広く普及し、国民の間にも生活習慣の重要性の認識は浸透した。一方、大規模ゲノム解析等に基づく遺伝的素因に関する理解、Developmental Origins of Health and Diseases (DOHaD) として知られる妊娠前・出生前から幼小児期の環境要因、温湿度・住環境・大気汚染を含む環境要因、さらにはCOVID-19による血管炎等の関与など、多様な環境要因の関与についての理解が大きく進んだ。そうした中で「生活習慣」に関する個人責任が過度に強調されることで差別や偏見に繋がる懸念が増大しており、その対応が３０年を経て改めて必要とされる。国民の主要な死因、健康寿命延伸の阻害要因である生活習慣病の予防対策を様々な職種や担い手が協働して進めていくことが、日本社会の活力の維持や増進に重要であるが、その対策について学術的な観点からの問題点の整理と解決策の提案が求められている。令和８年に公表予定の提言作成にあたっての議論醸成のため、本フォーラムを開催する。

６．次第
司会　池田 彩子（日本学術会議連携会員、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会 幹事、名古屋学芸大学管理栄養学部教授）
水野 篤（日本学術会議連携会員(特任)、聖路加国際病院医療の質管理室室長）

13:00～13:10　開会挨拶・緒言：生活習慣病の歴史と現在の立ち位置
磯 博康（日本学術会議副会長、国立研究開発法人国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長）

演題・演者等（予定）
13:10～13:40　講演：生活習慣病に関する用語と予防と臨床現場の間で
野出　孝一(日本学術会議第二部会員、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会 委員長、佐賀大学医学部医学部長／内科主任教授／循環器内科教授)

質疑 5分

13:45～14:15　講演：生活習慣病の用語について
二木　立（日本福祉大学名誉教授）

質疑 5分

14:20～14:50　講演：健康日本21の中での生活習慣病
岡村 智教（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授）

14:50～15:00　休憩

15:00～15:30　講演：メディアからみる生活習慣病（仮）
吉川 美恵子（日本放送協会（NHK）解説委員室）

質疑 5分

15:35～16:05　講演：多職種による生活習慣病予防に関して
西村　ユミ（日本学術会議第二部会員、健康・生活科学委員会委員長、東京都立大学健康福祉学部人間健康科学研究科 教授）

質疑 5分

16:10～16:55　総合討論（登壇者）

16:55～17:00　総括
山本　晴子　（日本学術会議第二部会員、臨床医学委員会委員長、国立循環器病研究センター理事／データサイエンス部/臨床研究管理部研究振興部長）